

ベビー靴かざられている雛の段

片井頼子

【評】 お雛様の段飾りは、三段・五段・七段とありこの頃では三段が主流となっている。そして、最下段には鏡台や重箱など生活用品のミニチュアを飾っている。初孫に会いに来た作者の目に飛び込んできたのは、小さな靴。しかも、雛壇に飾られていたのである。まだ歩けもしない孫の新しい靴。成長を願って飾ってあるこの靴に、作者の孫に対する愛情と将来の期待、そして無事を祈る作者の、孫への期待さえ感じられる佳句となった。